

保育かながわ

発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
一般社団法人
神奈川県保育会
発行人
萩原敬三
題字
故内山岩太郎筆

第57回全国保育研究大会

於 名古屋国際会議場

少し早めについた小田原駅新幹線ホームは人もまばらで閑散としていたが、次第に修学旅行の学生達の歓声に包まれました。直前の切符購入の際に、かなり混んでいると伺いましたが、これで納得。そんな混雑した新幹線とは思えぬほど定刻通りにスムーズに発車。途中、傘を差して歩く人々の姿を車窓から眺めながら、目的地でもある蒸し暑い名古屋駅に到着しました。

平成二十五年十月九日から三日間。愛知県を中心に、名古屋市にある名古屋国際会議場にて第五十七回全国保育研究大会が開催され、会場は千六百名の熱気により輪をかけて蒸し暑さを増していました。重要無形文化財でもある花祭りという古代民俗芸能のオープニングにはじまり、その後に式典が開会されました。児童

憲章の朗読、物故者への黙祷、表彰へと続き、最後に大会宣言が読み上げられ、会場一丸となった拍手により採択されました。なお、表彰に於いては神奈川県から五名の方々が栄誉ある会長表彰を受けて、その功績が称えられました。

表彰者の思い出 保育の思い出

横須賀市和順保育園園長

渡部 俊賢

勤める保育園は、お寺の境内にある保育園です。そして、私はお寺の長男として生まれ育っていますので、当時、小学校低学年でしたが、昭和四十五年四月に保育園が開設された時からの思い出があります。

その頃の保育園開所時間は朝八時から夕方五時までだったと思いますが、その時間では間に合わない保護者も当然いました。閉園時間に間に合わない子は、園から隣にある私の自宅で過ごします。時には夕食の時間まで一緒にいたりしていました。今思えば、のどかな時代でした。

私が就職した昭和六十年から現在まで三十年弱、保育園はずいぶん変わってきました。平成元年に一・五七ショック、少子化が問題となり、平成六年のエンゼルプラン等、その

後の少子化対策推進の政策として進められていくことになり現在に至っていると思われる。少子化の影響も受け、園児が少なくなり、園の経営を考えたり、保育園の新たな支援が求められる時代となってきました。当時、県保育会でも「二十一世紀の保育園」という様なテーマで、若手の園長先生たちが子どもたちにとって良い保育内容や、乳児保育・延長保育・子育て相談事業・一時保育・駅前保育など様々な保育体系を検討していました。当時は、〇歳児保育、延長保育、地域子育て支援は特別事業として進められていました。〇歳から子どもを保育園に預けるのはかわいそう。長い時間預けられる子どもはかわいそう。保育園は両親の就労時間だけ預かる施設である。今では考えられないようですが、子どもたちの声の代弁者は保育園であるという、子ども目線の真剣な議論がなされていたのもこの時期の思い出です。

もちろん保育園は現在も、

全ての子どもたちが笑顔で成長していける施設でなければなりません。

卒園した中学生が園に遊びに来て「保育園の同窓会をしたい」という子がいます。「保育園の時間が一番楽しかった。」それを聞くと、保育者として、うれしい反面淋しさを感じることもあります。

保育の思い出

大和市立緑野保育園

安藤らん子

この度は「全国保育協議会会長表彰」を受賞させて頂きありがとうございました。

ここまで続けて来られたのも、職場の上司や先輩、同僚の方々のご指導やご理解と、家族の支えがあったおかげと、感謝しております。

夢中で過ごして参りました私の「保育人生」ですが、いろいろなお話がございました。

保育のスタートは「幼稚園教諭」からでした。

四歳や五歳の子ども達を四十名ほど相手に、混乱なく事故の無い、そして楽しい保育

が行なえるように心がけていたことを思い出します。

三年間務めました、是非、乳児保育に係ってみたいと思いい保育園への転職を考えました。

縁がありまして、大和市役所に入所することができ、市立保育園に勤務することになり現在に至っております。

最初に配属された保育園は、二歳児から受け入れている園でしたので、残念ながらこれがれの「〇歳児クラス担任」にはなれませんでした。

初めの年は四歳児二七名のクラス担任で、そこには中度の発達遅滞のM子ちゃんがあり、私の「障がい児保育」のはじまりでした。

四十名の四歳児達を楽しく保育することなら少々自信はありましたが、「障がい」について殆ど知識が無い状態でしたので、不安だらけの、一からのスタートでした。

なかなかM子ちゃんの気持ちがあつかめず、突然部屋を出ていこうとしたり、泣き出したり、集団活動に入ろうとせ

ず、どうしたら良いのかまったく分からない事だらけでした。

とにかく色々な研修をたくさん受けて、先輩たちにアドバイスをもらいながら、手探りで、でも夢中で保育をしていました。

二年間M子ちゃんの担任でしたが、卒園近くには笑顔がたくさん見られるようになりました。卒園証書を一

人で受け取ることが出来た時は、保護者の方と手を取り合っ

て喜んだことを思い出します。現在私の園には、八名の特別に支援が必要なお子さんが在園しております。ひとりひとりの発達をきちんと保障した保育が出来るように、職員のスキルアップを図るとともに、連携を密にして保育園全体で見守る体制を作っています。かつて私が戸惑っていた時に先輩に助けられたように、今は職員全員で知恵を出し合い助け合えるように心がけております。

『保育の思い出』
綾瀬市立綾南保育園園長 武藤 初美
私が年長児の時頂いた誕生カードに「大きくなったら幼稚園の先生になりたいと答えてくれました」と書いてある。当時の先生が一言添えて下さったメッセージに大きく影響され、進路に迷った際の決心に繋がった。そして保育士になつていつの間にか三十一年が経とうとしている。この度、全国保育協議会会長表彰を賜



り改めて保育の仕事継続してこられたことに喜びを感じ、家族の協力に感謝し、仲間存在を噛み締めた。子どもたちのエピソード一つ一つに一喜一憂して、なんて素敵な職業なんだろうと思う。

ヤンキー先生で有名になった義家氏の恩師が卒業生に「一人ひとりが希望だ」と表現した気持ちがとても良く解かる。実際卒園児が楽しそうに子育てしている姿を見たり、仕事に打ち込んでいる話を聞くともっといっしょに話を聞けるように微笑ましくて涙腺が緩む。

ある卒園児が、「保育園が大好きだった。部屋の匂いも覚えてる。もちろん間取りも覚えてるよ」と言っていた。本当に責任重大な環境である。さて、「保育の思い出」ということだが、私が最初に勤務した園は知的障害児通園施設で、肢体不自由児も在籍していた。何もかもが初めてで新しい事を覚えるのが楽しく、新鮮だった。その中で園児を深く観察する事、客観的に記

録する事、解かり易い説明や保育準備、保護者とのコミュニケーション、専門職としての意識などを学んだ。経験の浅い私にとっては、失敗も多かったが自分の原点があるようにも思うし、その時の経験が今も役立つている。その後保育園に異動し合計すると現在の勤め先が一番長く勤務していることになる。さほど昔ではないが、現在は無くなっ

てしまった園庭での焼き芋会や、屋外カレーライス作り、お化け屋敷ごっこなどが懐かしい。バッタもビニール袋いっぱい捕まえた。お餅つきやお芋掘りなど現在も実施していることを出来るだけ続けていくためには事故を起こさないよう安全に実施していくことかなと思ってしまう。

平成七年に県保育士会の役員をさせて頂いたことで、他市にも仲間が出来、行動範囲や視野が広がった。そこでは会議の準備や進行、伝達の大切さと難しさを学んだ。全国の各大会には参加するたびに自分の存在の小ささを思い知

らされた。そのたびに富田先生、都築先生方に保育士会を気遣って頂いていたことが、時間が経過した今改めて気付かされる。

また今回、萩原会長にご配慮頂き、受賞者五名全員が第五十七回全国保育研究大会の会場である名古屋市に集結できたことは、一層思い出深いひと時になったと思う。

私たちの保育園が今変ろうとしている。保育所の整備が親の就労支援をしつつ、全ての子どもたちが健やかに育み過ごせる場所であり続けて欲しいと願うばかりである。

「保育の思いで」

愛川町立保育園

平川 晴美

これまでの三十八年間を思い返してみますと、新任保育士当時に担当した乳児保育・障害児保育は手探りで、一人ひとりにしつかり関わられるような状態ではなかったと思いますが、目の前の子どもたちにかかわることは楽しく、大変さの中にも子どもたちの何

とも言えないかわいいしぐさや動き、表情に一喜一憂したことが今でも思いだされます。子どもたちの夢中になっていたときのキラキラとした目の輝きや何気ない言葉に癒され、疲れも吹き飛び子どもたち一人ひとりが日々成長していく姿に安堵したものです。

今では良い思い出となりましたが、遠足でハイキングコースを歩いた時のこと、山々の紅葉や見晴らし台からの景色を堪能しながら、なだらかな山道を帰途に向かいました。途中道を間違えてしまいが、ゴルフ場に出ってしまったことがありました。事情を話すと

息持よくプレイを中断し待っていたいただき、子どもたちと一緒に「ありがとうございます」と頭を下げながら足早に通り抜けました。無事に保育園に戻ることができ、ましたが、その頃は携帯電話もない時代、園への連絡は電話を借りるなど素早い判断や役割分担で対処するチームワークの大切さを実感しました。

また、中学生になった卒園

児からの「先生、保育園の時おんぶしてくれてありがとう。」の手紙に大変嬉しく感激したもののつかの間、「先生をひつかいたりしてごめんね。」とも書かれていた事に当時の自分の対応が思い出されました。

周りの先輩や同僚のように上手くできずに悩み、自分の思いだけで突き進もうとするこ

人の支えのおかげで、困難を切り抜ける知恵や試練に向き合う力を頂いていたと感じました。

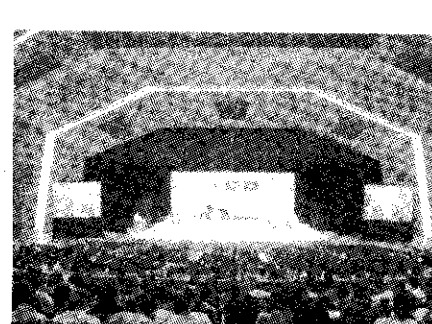
今日まで大好きな仕事を続けてこられたことに感謝しています。このたびの受賞はひとつの節目とし、これからは「子どもたち一人ひとりの幸せ」を願い、そのためのテーマを常に自分の中に持ち続け、人とのつながりを大切に「ありがとう」の気持ちを忘れず、一日一日を大切にしていきたいと思っています。



第 54 回 関東ブロック保育研究大会

～すべての人が子どもと子育てに 関わりを持つ社会の実現を目指して～

平成二十五年七月十一日、十二日。群馬県高崎市に於いて、第五十四回関東ブロック保育研究大会が開催されました。JR高崎駅に降り立つと、夏の盛りを思わせる熱気に包まれましたが、群馬県の案内の方々の笑顔に癒やされ、スムーズな案内で全体会場へ入ることができました。会場となった群馬音楽センターではオープニングアトラクションのフオーウル・ブラス・グループによる金管楽器アンサンブルの演奏が私たちを迎えてくれました。軽快なリズムと華やかなハーモニー、更にマリンバも加わり、迫力のある演奏は、大会の始まりを大いに盛り上げてくれました。



開会式は、大会運営委員長でもある群馬県保育協議会会長の歓迎のことに始まり、花のおさなご斉唱と保育関係物故者への黙祷、群馬県保育協議会副会長による児童憲章朗読。続いて主催者を代表して、群馬県知事、関東ブロック保育協議会会長、高崎市長のあいさつの後、来賓を代表して全国保育協議会副会長小島伸也氏のあいさつをいただきました。その後、来賓並びに主催者の紹介、感謝状の贈呈が行われ、最後に群馬県保育協議会副会長による「大会決議宣言」が読み上げられ、式典が終了しました。

基調報告は、全国保育協議会副会長の小島伸也氏より、保育をとりまく状況と、子ども子育て支援新制度に対する全国保育協議会の考え方などについてご報告いただきました。いよいよ始まった国の子育て会議、子ども・子育て会議基準検討部会は、動画配信もなされているそうで、今後の動向に注視していきたいと思われました。続いて、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長補佐鈴木義弘氏より子ども・子育て新制度について行政説明をいただきました。

記念講演は、タレントの中山秀征氏より「子育てと私」というテーマで行われました。ご自分の幼少期からの夢、芸能人になりたいということを追いかけて、何をすることも、その夢を叶えるためだったと振り返られ、子どもには夢が必要だと熱く語られました。又、四人のお子さんの父として、特にユーモアを混じえながら子育てに奮闘している様子を語って下さいました。群馬県出身ということとで、地元の話にも、花がさいてました。

二日目は、全四会場で九つの分科会が開催されました。神奈川県代表として第五分科会に鎌倉市保育士会研究会、第八分科会に愛川町立保育園園長会が研究発表、五反田保育園の伊澤昭治先生が議長の大役を果たされました。第五分科会は、「家庭や地域との連携による食育の推進」をテーマに、保護者へのアンケートをもとに、〇・二歳児の食育を考察し、保育士にできる支援を導き出されました。第八分科会は、「公立保育所の使命と地域社会での役割」をテーマに、様々な問題を抱える家庭や子どもたちを地域の子育て拠点としてどう支援していくか、事例を示しながら発表されました。

保育研究大会の大きなテーマである、すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして：に沿って、多くの保育関係者が集い、語り合ったことは、大きな充実感を得てそれぞれの会場を後にしたのではないのでしょうか。

次期開催地は、今年一番の暑さを記録した山梨県。その思いも熱い山梨県での再会を約束し、大会の幕が降りたのでした。



第 54 回関東ブロック 保育研究大会に参加して

愛川町

高木益代・林 綾子

とができたことは他地区でも魅力的だったようです。

今回、発表の機会を得て「公立保育所の使命と地域社会での役割」のテーマを見つめなおし、愛川町での気になることや療育に関する支援体制の取り組みや関わりを振り返りながら整理することができました。関東ブロックの発表の場では、市町村や保育所の規模にかかわらず保育所がかかえる問題は同じであること、それに伴う役割や関わりは同じように考えられるということがわかりました。また、愛川町の発表に対しては、臨床心理士への質問を多くいただきました。小さな町だからこそできることも知れませんが、保育園から小学校・中学校まで同じ臨床心理士が携わってくれていることで子どもの成長を見届けることにつながったり、保育士への療育アドバース・保護者への面談など、保育の方向性を見いだせるこ

子どもが、適切な環境の中すこやかに生き生きとして、乳幼児期を過ごせるように取り組んでいきたいと思えます。

また、公立保育所の課題として、1 横並び意識が強く、

助言者の櫻井慶一先生のお話では、公立保育所への期待・役割は今後さらに求められ、子どもが減って、大人も減って、地域社会が崩壊しつつあるところが出てきている中、保育所は最後の砦！ということです。愛川町のように公立保育所が主な保育の施設になっているところでは、特に役割が大きくなっていくだろうということでした。

今回の発表を機に、桜井先生の助言にもあつたことで、生（保育者・保護者）とのコミユニケーションギャップがとくにあり、非正規雇用の職員の増加・手不足などが指摘されました。

今回の発表で私達が課題とする点と重なる部分もありますが、公立保育所としてさらに視野を広げた課題に取り組んでいかなければならないことを感じ、愛川町で生まれ育つすべての子どもが、適切な

環境の中すこやかに生き生きとして、乳幼児期を過ごせるように取り組んでいきたいと思えます。

神奈川県鎌倉市保育士会

研究委員

今回、関東ブロック保育研究大会で発表させて頂き、同じ「食」に対しての研究でも様々な内容があることがとても印象に残りました。

が参加する研究会だったため、より多くの内容を集めることができたのだと思えます。

また、二年間という長い期間、一つの園が担当しての研究ではなく鎌倉市全園の代表が集まる場でもあったため、それぞれの園の情報交換も出来るというメリットもありました。

発表の当日は、自分達の発表だけではなく助言者である堤ちはる先生の講演を聞き、基本となる食への向き合い方等を知るとともに、後日、各研究者に向けて、研究内容に関しての感想とアドバイスをいただき、さらに研究内容を深めることができました。

各園の研究員がそれぞれの園に伝えていくという大きな宿題はありますが、今回の研究内容をもとに職員全体で共有し、今、目の前にいる子ども・保護者に対して何が一番必要なのだろうかということをしつかりと見極めて伝え、鎌倉市の研究テーマでもあった「楽しい食事」の実現に向け、日々保育を続けていきたいと思えます。

2 園独自のカラーが薄い。 3 職員の平均年齢が高く、新たなことへの対応がおくれがち。 4 地域に居住していないために地域の一員意識が薄く、地域に関心が薄い。 5 「公平意識」が、ときに個別対応ケースワークの対応を阻害。 6 行政の一員意識が強く行政都合に左右される。 7 若い世代（保育者・保護者）とのコミユニケーションギャップがとくにあり、非正規雇用の職員の増加・手不足などが指摘されました。

今回の発表で私達が課題とする点と重なる部分もありますが、公立保育所としてさらに視野を広げた課題に取り組んでいかなければならないことを感じ、愛川町で生まれ育つすべての子どもが、適切な

広い土地を活かした取り組み、地域・保護者の協力を得た取り組み等、それぞれの地域性もとても大きく関係しているということがわかりました。鎌倉でも、調理保育や野菜の栽培など、それぞれの園で食育に取り組んでいます。が、より良い取り組みができるよう、色々なことに目を向け、努力すべきだと感じました。

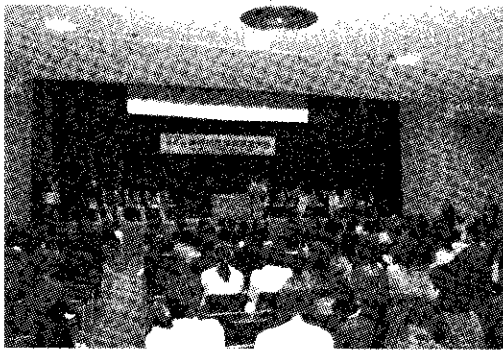
今回の研究にあたっては、鎌倉女子大学・公衆栄養学 中谷弥栄子先生を講師に迎え、アンケートを作り、集計・解析など、一つ一つ手順を踏み進めることができました。なかでも保護者へのアンケートでは、公私立の各園の代表者

第47回 神奈川県保育事業大会

さわやかな空の下、神奈川県保育事業大会が平成二十五年四月二十七日に神奈川県社会福祉会館にて開催されました。

「はなのおさなご」斉唱で始まり、児童憲章朗読に続き、萩原理事長の変化する子育て環境の中、変わらぬ子どもに寄せる想い・決意をうかがいました。

永年勤続表彰者四十一名の表彰、功績のあった叙勲受章



者・藍綬褒章受章者・厚生労働大臣表彰、神奈川県保育賞の受賞者への記念品の贈呈がおこなわれました。心よりお祝い申し上げますと共に、今後の保育事業での更なる活躍を祈念いたします。

引き続き来賓十九名の代表として、県民局次世代育成成部大久保部長、県議会県民企業常任委員会 長田副委員長、市長会会長 内野海老名市長および保育士養成施設協会平野会長の方々からご祝辞を頂戴いたしました。式典は予定通りに松本保育士会会長の閉会のことばにより終了いたしました。

休憩をはさみ、一般社団法人神奈川県保育会総会が開催され、平成二十四年度の事業報告及び決算についての報告と、監査報告が行われました。午後の研究発表は会場を変更しても立ち見の方が出るほどの大盛況で、五百余名の総参加者に感謝いたします。

第一会場

第一会場では、2つの研究発表が行われた。最初の発表は厚木市保育内容研究会による「生活リズムを考える」子どもの豊かな育ちを支えるくをテーマに研究発表が行われた。

保護者から子どもの生活リズムに関する相談が増えた事をきっかけに保護者アンケートを行い、生活リズムの実態を把握した。その結果、眠りと脳の育ちについて分析をし、保護者に具体的に情報提供をし、生活リズムの大切さ等を啓発していくことで、家庭での変化が見られた。

保育士が専門的知識を持ち、保護者支援をこれからもしていく事で子どもの育ちを支える重要性を感じた発表であった。

続いて、藤沢市保育士会保育内容研究会による「運動遊び」をテーマに研究発表が行

われた。平成二十四年三月に文科省より「幼児期運動指針」が出された事を基に、今の子どもたちの運動面の課題を年齢別にそれぞれの視点を持つて研究の取り組みを行ってきた。

乳児から幼児へと成長が著しい時期、育てたい力を明確にし、多種類の運動遊びを取り入れ積み重ねていく事の大切さ、幼児期は様々な遊びの場の設定、工夫する事が不可欠であり必要な運動を意図的に経験させていくことが重要である。

実践を通し、体を動かす事の楽しさに気付き、心、体、バランス感覚も良くなり変化が見られたという発表であった。

第二会場

第二会場では「公立保育所の使命と地域社会での役割」のテーマで二つの研究発表が行われた。

まず、愛川町立保育園園長会より「ふれあいとささえあい

のある子育て」と題して発表があった。愛川町は平成十四年より「子育て支援の町」として力を入れ、家庭支援を積極的に取り組んできた。課題のある子どもの支援として、公立保育園6園が専門職による相互の協力体制や様々な関係機関との連携により、総合的な療育の充実を図ったという事である。

平成18年度より臨床心理士を導入したことにより、更に子どもの成長を見届ける事につながる体制作りの重要性が発表された。

また、公立保育園としての課題もあり、人材育成や環境整備等、様々な問題があり困難さを話された。

次に三浦市主任会より「保育者の資質向上を図るー保護者アンケートから見えてきたものー」と題し研究発表が行われた。

保育園、保護者への思いを保護者アンケートで行う事により、保護者自身の振り返りができ資質の向上へとつながっていった。また、保護者側

より保育園に望む事や望ましい保育像が見え、それに応える保育園づくりの重要性を話された。

第三会場

第三会場では「家庭や地域との連携による食育の推進」をテーマで二つの研究発表が行われた。

最初の発表は平塚、中郡保育士会保育内容研究会による「楽しい食育遊びく身近な材料を使つての手作り玩具」と題し研究発表された。集団生活を通して「食」の大切さ、楽しみ、マナー、感謝の気持ちなど「食」への関心が芽生えていけるよう「楽しい食育遊び」として二年継続で取り組んだ。

食べ物カードの作成、食育ソングの作成、ペットボトルキャップ玩具作り、紙芝居作り等教材作りの工夫をし、子ども達へ「食育」に対する意識を高めていった。子どもたちが楽しく遊ぶ中で、年齢に応じ食の関心に変化が見られ

るようになり、改善等にもつながった姿が見られた。

また、子どもを通して家庭にも「食育」の大切さを伝える事もできた。今後もさらなる「食育」を実践していき、保護者だけでなく地域にも伝えていきたいという発表であった。

続いては鎌倉市保育士会研究会による「0〜2歳児の食育を考えるー楽しい食育をするためにはー」と題し研究発表が行われた。子どもにとって「楽しい食事」とはどのような食事なのか家庭へのアンケートを基に考察していった。保育園における食事の様子と家庭での様子、保護者の思い悩みの違いを知ることにより研究を進めていった。

授乳期、離乳期、1歳児、2歳児の各ステージの楽しい食事へのキーポイントを示し、研究結果を保護者へフィードバックし、職員同士連携、協働しながら子どもたちにとっての真の「楽しい食事」の実現に向けて日々保育をしているとまとめた。

最後に秦野市保育士会保育

内容研究会による「子どもの体力向上を考える」をテーマに研究発表があった。近年の子ども体力、運動能力の低下に伴い、保育に生かせる体力向上を意識した遊びを研究してきた。講師からの助言として、子どもの身の動かし方の3つのポイント(物の道理、身体認知、空間認知)を学び、成果ではなく過程が大切である事を知る。

平成25年度関東ブロック 保育事業連絡協議会

九月十九日(木)・九月二十

日(金)両日に亘りオークラ千葉ホテルを会場として、平成二十五年年度関東ブロック保育事業連絡協議会が開催された。本会からは萩原理事長・伊澤副理事長・宮田副理事長・都築理事・富田理事・志村事務局長、保育士会からは松本会長・竹田副会長・本間副会長が参加いたしました。

開会式では、関東ブロック保育協議会飯島会長、千葉市

る事を知る。

1〜2歳はボール遊び、3〜5歳は新聞紙遊びの実践を通して体力向上を目指した。研究を通して、今まで保育士が考えていた体力向上は目に見える事に意識がいきがちだったが、今後は遊具の固定概念に捉われず、使用する物の特徴を把握し、子ども達に遊びを提供して体力向上につなげたという発表であった。

連想させる姿でした。

開会式後は、保育部会・保育士部会・主管課部会・リーダー育成部会と、職域別会議へと場所を移し、それぞれに課せられた提案協議題に関するディスカッションが行われました。共通の検討問題と地域独自の諸問題、様々な協議題へ知恵を出し合う活発な意見交換は、全ての会場で見られたようで、懇親会上的笑顔と時に朗らかに、時に熱く繰り広げられる会話からも見て取れました。

2日目は各議長より職域別会議の報告と総評が行われ、メインである「共同して遊ぶ」と子どもたちの育ち」と題した講義に移りました。

熊谷市長の代理として保育運営課保育所指導担当課長、そして千葉市保育協議会吉江会長が挨拶されました。会場として選ばれた千葉みなと駅周辺は、三月十一日の震災時の際に液状化の被害に見舞われた湾岸地域にあって唯一ほとんど被害を受けなかった地域です。千葉市役所や中央警察署など、市の主要機能のほとんどが集約された整然とした町並みは、各機関同士の連携が密に行われていることを

講師は、淑徳大学総合福祉学部教授榎沢良彦先生。平成二十年に改訂された学習指導要領に記載された「集団生活の中で自発性や主体性等を育てるとともに、人間関係の深まりに沿って、幼児同士が共通の目的を生み出し、協力し、工夫して実現していくという『協同』する経験を重ねる。」

ことの重要性に関して、都内の幼稚園での事例(作品展当日までの準備の様子)を交えながらお話し下さいました。「二人以上の者が力を合わせる」と意味する「共同」。

それを土台とし、その上にもみ構築可能な「ともに心と力を合わせ、助け合って仕事をすること」を意味する「協同」。

学校で子どもたちの育ちの目標とする心情・意欲・態度を育てる上で欠かすことのできない大切なキーワードです。

保育園にお子さんを預けるご両親の中には「職場へ戻る」とは言え、この子を保育園へ預けることに申し訳ない気持ちがある。」と悩まれる方がいます。

早い段階から集団の中で学び、社会を構築してゆく大切な育ちの場ですよ。」と、保育園の役割を伝えながら、悩める背中をそっと押してあげられる大切な根拠をいただきました。

県・市町村児童福祉主管課長と 県保育会委員との連絡協議会

平成二十五年七月二十五日

(木)ホテル・キャメロット・ジャパンに於いて、県・市町村児童福祉主管との連絡協議会が開催されました。

連絡協議会は、神奈川県次世代育成課、政令市(横浜市・川崎市・相模原市)を除く県各市町村の主管課長と神奈川県保育会役員の参加で行われる県保育会主催の神奈川県独自の協議会です。

今年度は、議題「子ども・子育て支援新制度について」と題して、行政から県次世代育成課長を始め、十三市町村の主管課長のご参加を頂き、県保育会役員三十数名の出席で行われました。

第一部は、萩原理事長の主催者挨拶で始まり、基調講演、質疑応答、意見交換会が行われました。

「認定こども園制度が問われるものゝ今求められる保育のあり方」を演題として行われました。先生の講演では、現状では具体的でないため、こども園の制度の話について

はあまりふれられず、先生の保育論を中心にお話をいただきました。幼稚園と保育園の要領が一緒に検討し合えるよう

になることはうれしいことで、教育と保育は、字は違っても同じものでなければならず、幼稚園と保育園等施設の違いで、小学校教育を受ける

ときにスタートが違うのはおかしなことである事の話がありました。また、保育要録の読み取り方、書き方の重要性を講義いただきました。

「戦後、保育に欠ける子、救貧制度の位置づけから、現在はユニバーサルサービス(誰もが等しく受益できる公共的なサービス)となっている保育所は、今後幼児教育への期待と、虐待やアレルギー対応

など養護機能の充実が期待されている。」との話から始まりました。

その後、平成二十六年までの各市町村の子育て支援計画の後期計画の状況説明がされました。多くの市町村で施設整備を行い、定員を増やして

潜在的な待機児童が把握しづらく、地方版の子ども子育て会議などを行い、需給の調査を行っていくことなどが話されました。

あり、各市町村では賛否があるようでした。

最後に、富田相談役より、保育士の確保が困難な現状であること。企業系の保育所の参入への懸念。全国的には、半数が定員割れをしている現状や、少子化で定員割れになる保育所への保障などの要望をこめての言葉で第一部を閉会し、その後、第二部の情報交換会・懇親会が行われました。

